

「災害時における自治会の役割」は重要です！



兵庫県立大学大学院 准教授 澤田雅浩さん

燕市の防災リーダー研修などで講師を務める澤田さん ▶



●災害時は地域の支え合いが必要です！
風水害の場合、みんなで声をかけて安全な場所に移動するためにご近所の皆さんの協力が欠かせません。地震の場合は、もし住宅が壊れたりしていたら、中にいる人を速やかに助け出せるのは周囲の人々です。そして、避難所での生活が必要となった場合、その環境をより良いものにするために自治会の皆さんの力が重要となります。

●災害時は自治会の人たちの視点が大事です！
安否確認や避難所での生活環境の整備、ボランティアの受け入れなどは、地域をよく知り、みんなで協力できる体制を普段から整えている自治会が担うことができます。また、自治会の人々の目線で被害を受けた人の困りごとを拾い上げることで、よりよい支援へとつなげることもできます。その意味で、公助との接点としても重要な役割があると思います。

●顔見知りになることで防災に繋がります！
災害時の助け合いは顔見知り同士のほうが当然スムーズに行きます。防災訓練は定期的に行うことで、経験のある人を増やすことになり、地域の防災力向上に繋がります。しかし、防災にあまり関心を持っていない人にも何かしらの関わりを持ってもらうためには、お祭りや一斉清掃などの地域行事で、防災の役割を皆さんにお伝えし、「こんなことも災害時の被害軽減に繋がるのだ」と気づいてもらうことも大切です。

●能登半島地震の被災地での助け合い
普段のコミュニケーションがしっかりしている地域では、孤立状態で外部からの支援が届かない中でも、助け合って避難生活をしていたり、建物の倒壊で生き埋めになった人の救助救出が行われていたりしています。地域のこと、そして地域の人々のことをよく知っていたため、そういった対応を自分たちで行うという共助（助け合い）が各所で行われていました。

住み良い地域づくりのためには、住民一人ひとりの協力が欠かせません。地域のことを自分ごととして考え、できることから少しずつ自治会の活動に参加してみませんか。

自治会に加入したいときはどこに相談すればいいの？

自治会に加入する場合は、お住まいの地域の自治会長に問合せください。お住まいの自治会や自治会長の連絡先がわからない場合は、市役所に問合せください。
●問合せ
総務課 総務係 ☎ 0256・77・8312

Case 3 自分たちの地域は自分たちで守る
分水新町水道町自主防災会
分水新町一丁目から四丁目と、分水水道町の自治会では、自主防災組織をつくり、地域住民がお互いに協力して防災活動に取り組んでいます。昨年10月に避難所となる分水公民館で実施した自主防災訓練には、17人が参加。防災意識を高め、非常時に備えるため、非常食や災害用携帯トイレ、給水袋を参加者に配付しました。参加者からは、「今まで危機感を持っていなかったが備えは大切」「今後定期的な訓練したほうが良い」といった声が寄せられたそうです。



▲応急救護などの講習を受ける参加者

Q. 今後の課題は何ですか？
A. 地域内の世帯状況の把握や役員の担い手不足などです。若い人たちが自治会や自主防災組織に加わり、SNSを活用した取り組みなどで防災力を高めることも、必要になってくると思います。

分水新町四丁目自治会長の吉原さんにお話を伺いました！

Case 2 自治会情報をデジタル化で便利に

吉田鴻巣自治会

吉田鴻巣自治会では、自治会や地域の情報を住民にすばやく伝えるため、回覧板の電子化を検討してきました。当初は自治会のホームページを検証しましたが、昨年8月に新聞記事で紹介された秋葉町三丁目自治会の「公式LINE」を活用したデジタル回覧板の取り組みを知り、方針を転換。電子化の準備を進め、今年2月から電子回覧板の運用を始めました。



▶昨年11月に開催した住民説明会

吉田鴻巣自治会の電子化を進める

電子回覧板で住みやすい鴻巣に

電子回覧板とは

- 紙の資料を電子データ化
- インターネット上にアップロード
- 登録者に知らせて、見てもらう

注意：今使っているバインダーの回覧板を「回覧板」と表現します。

電子回覧板導入による期待できる効果

- 自治会や地域の情報がいち早く届く
知ること自治会や地域への関心の高まり→自治会活動の活性化
- 電子回覧板のトーク機能は新しいコミュニケーション
手軽に連絡できて、近所づきあいが広がる→近隣交流の活性化
- 電子回覧板の既読確認機能で未読のままは、異常を知らせるサイン確認に行くことで、万一の事態を素早く察知→高齢者世帯の見守り
- 災害発生時の通信手段・安否確認に
災害時を想定し安否確認の訓練→災害への備え

電子回覧板の導入にご理解をお願いします

▲昨年11月に開催した説明会の資料（抜粋）

吉田鴻巣自治会長の塚原さんにお話を伺いました！

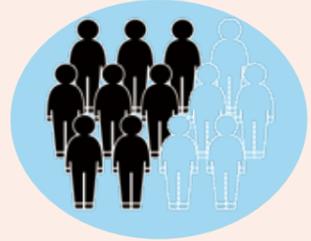
Q. なぜ電子回覧板を導入することにしましたのですか？
A. 速やかな情報共有や後から見返せること、それに電子回覧板アプリの既読確認機能が高齢者の見守りになり、災害時は連絡手段、安否確認ができるなどいざというときの備えの一つとなるからです。
Q. 住民の皆さんから反対の声はありましたか？
A. 住民意向調査で6割以上の人が電子回覧板を使ってみたいとの回答しており、運用開始は田滑にできました。

Q. 運用にあたっての課題はありますか？
A. 一つはスマホに不慣れた人への対応です。今後、電子回覧板の登録や操作方法の説明会を予定しています。もう一つは、アパートの入居者へのアプローチです。アパートは紙の回覧板が回らず、回覧情報を掲示板で見ただけのところもあり、自治会や地域の情報を共有するために、登録してほしいと思います。
Q. 電子回覧板への期待は？
A. 多くの人が登録していただき、速やかな情報共有で安心して暮らせる吉田鴻巣にしていきたいと思っています。

このままだと自治会の存続が…

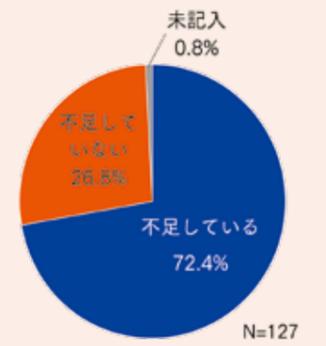
ライフスタイルの変化や少子高齢化などで住民同士の繋がりが希薄化する中、自治会は人と人との繋がりをつくる大切な役割を果たしています。

しかし、現在多くの自治会では役員の担い手不足や地域活動に参加する人の減少などが課題となっています。



Q. 自治会役員の担い手は？

昨年2月に燕市が実施した自治会長へのアンケートで自治会役員の担い手について質問したところ、72.4%の自治会が「担い手が不足している」と回答しています。



Q. 自治会やまちづくり協議会、NPO、ボランティア組織などの活動への参加状況は？

また、昨年10月に実施した「燕市まちづくり市民アンケート」で自治会やまちづくり協議会、NPO、ボランティア組織などの活動への参加状況について市民に質問したところ、66.0%の人が「参加したことがない」と回答しています。

